

# 本邦自動車史黎明期の解明と考証

自動車歴史考証家 **佐々木 烈**



## 佐々木 烈 (ささき いさお) 略歴

- |                   |   |                             |   |
|-------------------|---|-----------------------------|---|
| 1929 (昭和 4) 年3月7日 | 新潟県佐渡郡佐和田町沢根に生まれる   | 1989 (平成 元) 年 3月            | 国際ハイヤー (株) 定年退職。以降研究本格化                                   |
| 1935 (昭和10) 年     | 父米穀商倒産。東京市向島区吾嬬町に転居   | 1990 (平成 2) 年 8月～1991年03月まで | 「明治村通信」に「本邦最初の自動車販売店モーター商会について」連載                         |
| 1941 (昭和16) 年 3月  | 小学校卒業。府立第七中学校夜間部に入学   | 1992 (平成 4) 年3～12月          | 日刊自動車新聞に「抄録明治の輸入車」連載以降、「軽自動車情報」、「月刊佐渡國」、「トラモンド」などに研究成果を連載 |
| 1945 (昭和20) 年 2月  | 終戦直後父病死。運送店就職   | 1994 (平成 6) 年 4月            | 『明治の輸入車』(日刊自動車新聞) 自動車文化研究所から「中尾自動車工業史奨学金」受賞               |
| 1950 (昭和25) 年 4月  | 慶應義塾外国語学校英語科入学  | 1999 (平成11) 年 1月            | 『佐渡の自動車』(懶郷土出版社)  |
| 1952 (昭和27) 年 6月  | 自動車運転免許取得   | 2004 (平成16) 年 3月            | 『日本自動車史』(三樹書房)  |
| 1953 (昭和28) 年 3月  | 慶應義塾外国語学校英語科卒業  | 2005 (平成17) 年 5月            | 『日本自動車史 II』(三樹書房)   |
| 1961 (昭和36) 年     | 佐々木梱包興業自営   | 2012 (平成24) 年 6月            | 『日本自動車史 写真・史料集』(三樹書房)                                     |
| 1968 (昭和43) 年     | 運転手事故による賠償で、自営業廃業   | 2013 (平成25) 年 2月            | 『日本自動車史 都道府県別乗合自動車の誕生 写真・史料集』(三樹書房)                       |
| 1968 (昭和43) 年     | 国際自動車 (株) 入社。有楽町 (営) 勤務   |                             |   |
| 1971 (昭和46) 年 6月  | 「東覚寺」で社内報文芸賞  |                             |   |
| 1977 (昭和52) 年 7月  | 労働組合中央委員、支部長、中央委員会議長<br>「私の東京案内」で社内報特別賞<br>漫才師・横山やすし暴言問題に強い関心抱く |                             |   |
| 1980 (昭和55) 年11月  | 『街道筋に生きた男たち』(総合出版センター)  |                             |   |
| 1985 (昭和60) 年 6月  | 『ザ・運転士』(総合出版センター)   |                             |   |
| 1988 (昭和63) 年 8月  | 『車社会その先駆者たち』(懶理想社)<br>「明治村通信」に「タクシー創業史」連載                       |                             |   |

佐々木烈氏は、昭和52年から今日に至る37年間、自動車史黎明期における明治・大正・昭和戦前期における全国新聞記事、内外雑誌記事、官報、会社登記簿、自動車関係法令、各種統計等々を主軸とし、更に各地における関係者及び遺族等の取材を併せ、資料・情報の収集と考証に、懸命な努力を継続してこられた。

その結果、『日本自動車史稿』を中心とするこれまでの自動車史に、新たな解明・修正補完をなされたことは、氏のご努力の成果であり、斯界への大きな貢献である。

ここでは、これまでにおける氏の調査研究の展開を、その歩みが集約された氏の著作を追って、ご紹介することにします。

## 『街道筋に生きた男たち』(昭和55)

## 『ザ・運転士』(昭和60)

### ～江戸・明治期における道路交通担い手の研究～

昭和52年、タクシー運転手に対する漫才師・横山やすしの暴言問題が発生した。佐々木氏は、この暴言への怒りと疑問を起点として、江戸・明治期における道路交通の担い手について研究を志した。その根底に、ハイタク運転士としてのプライドが強く存在したのである。氏は、多忙な勤務の傍ら、国会図書館を拠りどころに、資料調査・研究を続けた。

氏は、わが国における交通史の中で、交通労働者を取り扱った研究が極めて少ないことを嘆じている。更に、駕籠かき、御者、馬丁、車夫などが、江戸・明治時代における道路交通を担う重要な存在であったにも拘わらず、雲助、車夫馬丁の輩などと蔑視されてきた。横山や

すしの暴言は、その土台の上に発したものである。今日のハイ・タクのプロドライバーの社会的役割は、極めて大きいのであるが、果たして、かつての域から脱皮しているだろうか。(ハイ・タクとはハイヤー・タクシーの略)

氏は、前者において、同業としてのハイ・タク運転士の視点から、その担い手の役割と歴史を論じ、後者で、現在の運転手の生活を『ザ・運転士』にまとめた。ハンドルを握って16年、その経験・見聞の記述に、自動車史の事績が詳しく織り込まれ、興味溢れる著作である。

## 『車社会その先駆者たち』(昭和63)

### ～自動車先駆者の研究に展開～

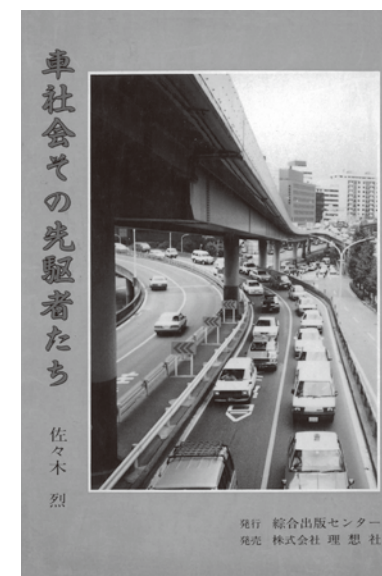
今日における自動車王国日本の明治・大正期は、苦難にみちた草創期であった。その中であって懸命の努力を続けた先駆者たちの足跡を調査する為に、佐々木烈氏は、新聞・雑誌記事収集、官報、自動車関係企業の登記簿調査及び関係者の訪問取材を、休暇を利用して懸命に続けた。

その調査対象は、実に広域である。明治31年、我が国に自動車初到来以降、自動車の輸入販売、製作、自動車営業取締規則制定、乗合自動車、ハイヤー・タクシー、貨物自動車の営業、そして、プロ運転士の登場、自動車学校、運転免許試験等々。自動車の社会的活用をめぐる広範な分野における関係者の群像を追い求め、その業績を解明した。

この著作は、これまでの研究視点を更に展開し、本邦自動車史黎明期の解明に努めた佐々木氏の、この時期における成果である。



道路交通の担い手の社会的役割についてまとめた『街道筋に生きた男たち』



自動車の社会的活用をめぐる様々な分野の関係者に取材をした『車社会その先駆者たち』



## 『明治の輸入車』（平成 6）

～退職により、全力挙げての調査研究に発展～

平成元年、氏は、22 年間勤めた国際ハイヤー（株）を退職した。日本自動車輸入組合理事長の梁瀬次郎氏は、本書への寄稿の中で、「明日からは毎日、自分の時間のすべてを使って国会図書館に通える。好きな研究に没頭できる。そう思うと、嬉しさの方が大きかった」と、佐々木氏の喜びを紹介している。

以後、氏は全力を挙げて、国会図書館を中心に資料調査収集及び各地の取材に努めた。殊に、官報及び自動車関係企業の登記簿調査は貴重である。

明治期の自動車史は、輸入車の歴史であり、そして、輸入業者、購入者に関連する。氏は、明治期に輸入された 39 車種についての検証を重ねた。

氏は、これらの研究を進めながら、「明治村通信」、「軽自動車情報」に発表を続けた。本書は、平成 5 年、40 回にわたり日刊自動車新聞に連載した「抄録明治の輸入車」をベースに纏めたものである。

ことに黎明期に関する自動車史では、古老の回顧談、それに基づく推測などが多く、改めて調査・修正すべき事項がすこぶる多かった。自動車 100 年という記念する日が来る迄に、ぜひ修正しておきたいとの氏の熱意と努力には、深く敬意を表するものである。



ひたすら、調査に専念する佐々木烈氏

## 『日本自動車史』（平成 16）、

## 『日本自動車史Ⅱ』（平成 17）

～全国的な資料及び情報収集への展開～

前者『日本自動車史』のサブタイトルには「日本の自動車発展に貢献した先駆者の軌跡」とある。内容は、日本初の自動車技師、自動車販売店主、国産自動車製作者、乗合自動車、タクシーなど事業者等の事績を中心に叙述。併せて関税、自動車税についても論述している。これらは、平成元年から 14 年にかけて、「日刊自動車新聞」、「明治村通信」、「軽自動車情報」、「国立科学博物館記念誌」に連載、寄稿したものをベースに、更に稿を新たにしたものである。

後者『日本自動車史Ⅱ』のサブタイトルは「日本の自動車関連産業の誕生とその展開」である。

先ず、自動車の前史である人動車から木炭自動車までを取り上げた。享保 14 年（1729）に製作された陸船車なる人動車から、昭和 19 年（1944）、考案された「高



国会図書館を中心に資料収集及び各地の取材に努めた氏の集大成ともいえる『日本自動車史』『日本自動車史Ⅱ』



今後の自動車史研究者の一助になればと、両書で1500点を超える膨大な資料を編集した『日本自動車史 写真・史料集』（左）『日本自動車史 都道府県別乗合自動車の誕生 写真・史料集』（右）

機式B型圧縮瓦斯機」に至る 200 年に亘る事績である。その全容は、数々の国産自動車製造に発して、軍用自動車、トラック、消防自動車、木炭自動車、瓦斯発生器、国産タイヤ等々の生産。道路、道路交通、ガソリンスタンド、自動車学校。そして、各種法制、特許、保険等々、幅広い観点から叙述したものである。何れも、氏が懸命に収集した広範な資料、そして、各地における親族を始め関係者を訪ねての事績発掘によるものである。

この両者によって、草創期における自動車史の事績が更に明確になっていることは注目に値する。

## 『日本自動車史 写真・史料集』（平成 24）

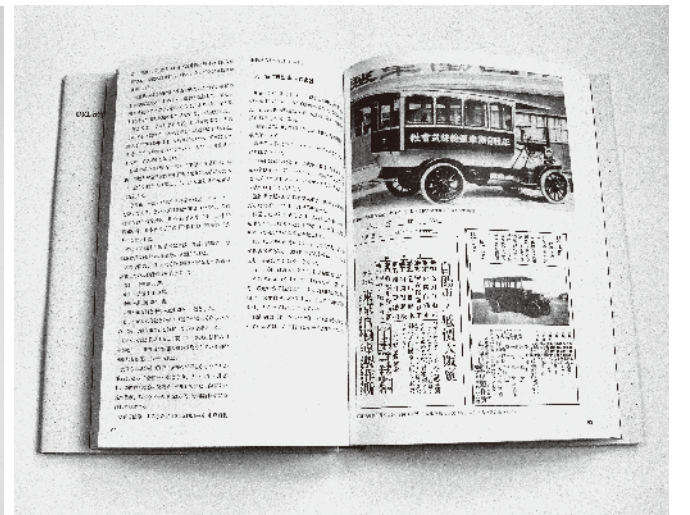
## 『日本自動車史 都道府県別乗合自動車の誕生

## 写真・史料集』（平成 25）

～これまで収集した写真・史料の提供～

氏は『日本自動車史Ⅰ・Ⅱ』刊行後、平成 18 年 7 月から 4 年間、日刊自動車新聞連載の「都道府県最初の乗合自動車」の取材で全国を回り、更なる資料の収集を重ねた。併せて、これまでの著書のなかに収め得なかった写真や史料の数々が、今後の研究者にとって参考になることを痛感した氏は、これから日本自動車史を研究される方の一助になればと、本書出版の運びとなった。

その時代範囲は、明治 28 年から昭和 3 年まで 33 年間に及ぶもので、我が国における自動車産業草創期の写真及び史料 1,300 点が収められている。その内容は、各種自動車、運転手、自動車学校、自動車専用道路ガソリンスタンド、石油会社、タイヤ、泥除け器、付属



品など、また、自動車関係の発明特許や実用新案公告も収めている。

後者は、前記日刊自動車新聞「車笛」欄に連載した「都道府県最初の乗合自動車」を基礎にしたものである。特に、日本における自動車の全国的発展は、各県で展開した乗合自動車事業が基礎をなしているので、交通史研究上すこぶる参考になる。また、「はじめに」及び「まとめ」に、これまで続けてこられた調査方法、そして、もろもろの感想を述べておられ、感銘をうける。

この両者は、今後における日本自動車史の研究のため、実に貴重な基礎資料として大きく寄与することが期待される。

## 研究活動を支えた夫人の功

本邦自動車史の草創期における実態解明に努めてこられた氏の成果は、殿堂入りに実に相応しいものと考えられる。この氏に対する敬意と共に、我々は、氏の研究の土台を支えてこられた夫人のご協力を忘れてはならない。

氏の研究に費やされた時間と経費は、誰からも与えられたものではない。

氏は『ザ・運転士』のなかで、特に一節を割き、夫人への感謝を述べているが、「・・・私を、今日まで精神的にも、経済的にも女房はしっかりと支えてきてくれた」の行は、私どもの胸を打つ。

表現は、穏やかなものであるが、長い歲月である。この夫人があつてこそ、氏の研究に華が咲いたものといえよう。

（自動車史研究会会員 齊藤俊彦）



執筆活動に専念し、日刊自動車新聞の連載をベースに上梓した『明治の輸入車』